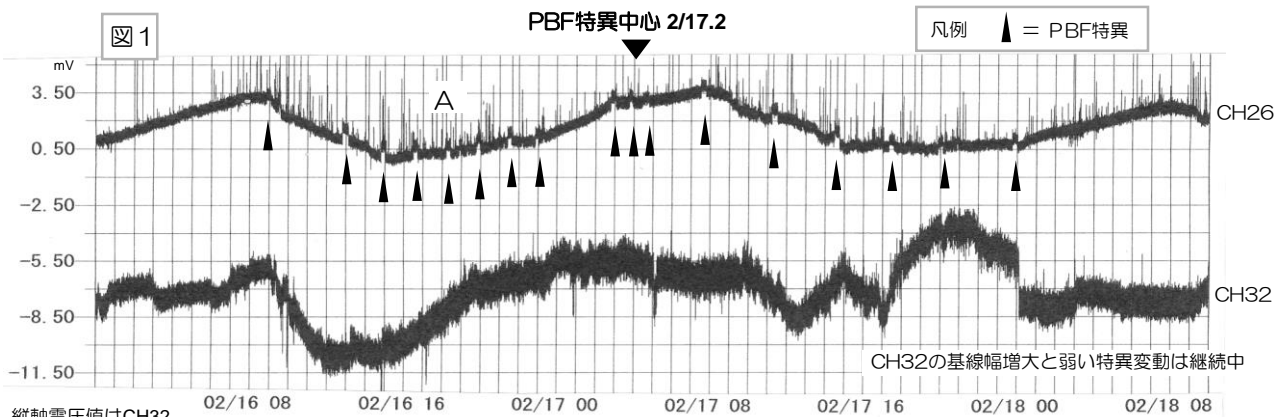


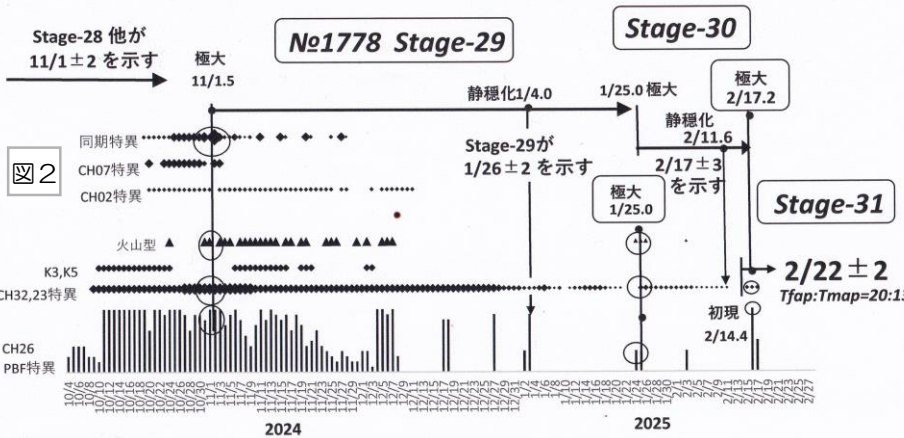
※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、深海補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

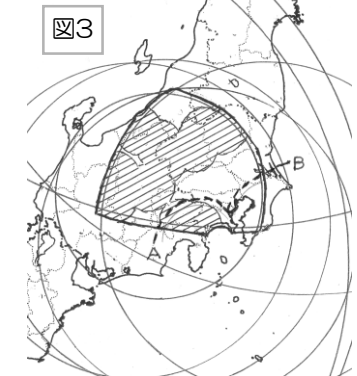
No1778長期継続変動 CH26・20 PBF特異中心=2/17.2 に修正 推定時期誤差内ですが「対応地震 2/22±2 発生の可能性有」に再度修正



縦軸電圧値はCH32の電圧値で表示
仮に2/22発生の場合はCH32の変動は2/21 未明に静穏化する可能性



◆前号でCH26・20にPBF特異出現が観測され、図1のCH26基線上のA付近に極大の可能性として計算し、2/21±2発生の可能性と報告。
◆しかし、図1のとおり、本日迄のデータを見ますと、PBF特異中心は2/17の04時前後となります。本日2/18の0時以降、PBF特異再出現は現時点まで皆無です。この観測事実から、初現=2/14.4、極大=2/17.2の關係に修正され、経験則 T_{fap}:T_{map}=20:13 を使用しますと 2/22±2 対応地震発生の可能性が示唆されます。前号の2/21±2発生推定の誤差内ではありますが、報告した内容が実際と異なっており、再度の修正とさせて頂きました。何度もの修正、本当に申し訳ございません。心よりお詫び申し上げます。2/22±2に発生ない場合は、CH32変動初現認識の誤りがある可能性有。今後更に修正が必要な場合もあり得ます。その場合は続報させて頂きます。



No1778 長期継続変動に対する現段階での推定内容

- 推定領域：図3の太線領域内=大枠推定領域
図3斜線域=可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合=M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110~150km程度となる様な複合地震活動の可能性（群発的な活動の可能性も有）
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい
- 推定時期：2月22日±2日
(※仮に上記期間に発生無い場合、CH32変動継続や2/22±2に極大出現の場合は再考)
- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)

A~B弧線以南の可能性は極めて低い

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。